

大淀町橋梁長寿命化修繕計画

1. 背景・目的

長寿命化計画を更新しました！！

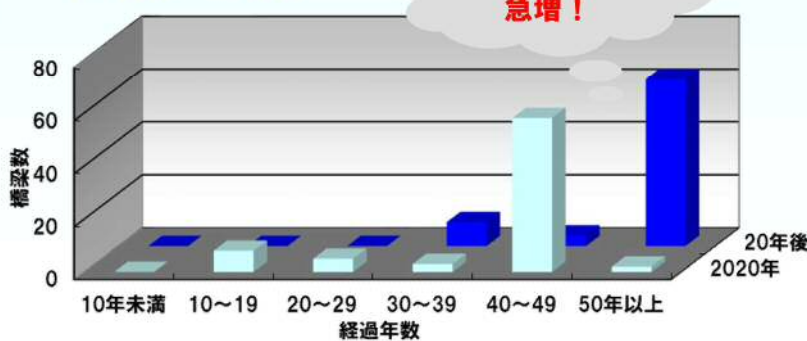
背景① 高齢化橋梁の増加に伴う今後の橋梁修繕・架替えに係るコストの増加

○大淀町が管理する橋梁は高度経済成長期に建設されたものが多く、近い将来、急速に高齢化橋梁が増加します。一般的には、建設後50年を超過した橋梁を高齢化橋梁と呼んでおり、20年後には全体の83%※を占めることになります。

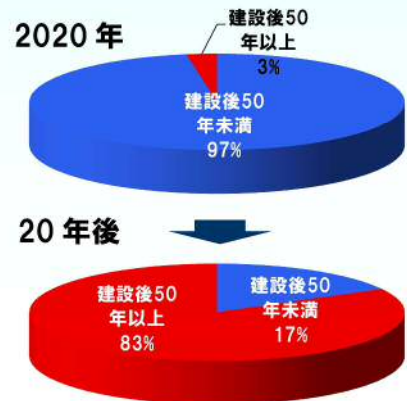
○高齢化橋梁の増加に伴い、高齢化橋梁の安全性や信頼性を確保するためには、橋梁の修繕・架替えに要する経費の増加が見込まれます。

●令和元年度計画策定橋梁

76橋の橋齢分布



●高齢化橋梁の分布の推移



※上記の橋梁数及び割合は、令和元年度計画策定橋梁76橋によるものです。

背景② 平成24年度長寿命化修繕計画の見直しの必要性

○平成24年度では、それまで点検を行っていた15m以上の橋を対象に長寿命化修繕計画を策定しておりました。しかし、小規模な橋に対しても計画的な維持管理を行うことは必要であり、新たに全管理橋梁を対象とした維持管理計画の更新を行う必要があります。

背景③ 今後の厳しい財政状況

○現下の経済情勢による今後の税収動向の不透明さや少子高齢化の進展による社会保障費の増加などにより、今後、より一層厳しい財政運営を余儀なくされます。

目的：安全で安心できる道路橋の確保、コスト縮減及び必要予算の平準化

○安全で安心して利用できる道路ネットワークを確保するため、橋梁点検により管理橋梁の現状を把握し、計画的かつ予防的な修繕を実施することによって橋梁の長寿命化を図ります。

○橋梁の長寿命化を図りつつ、増大が見込まれる橋梁の修繕・架替えに要する経費の縮減及び予算の平準化を目的とした橋梁長寿命化修繕計画を策定します。

2. 管理橋梁の特色

○橋梁長寿命化修繕計画を策定するにあたっては、管理橋梁の特色を把握し、それに見合った計画を立てることが重要です。

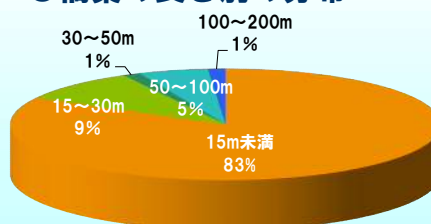
○管理橋梁のうち、令和元年度計画策定橋梁 76 橋については、以下の特色を有しています。

- コンクリート橋（桁がコンクリート製の橋梁）が大半を占めています。
- 橋梁の長さは 50m 未満（中規模程度）が大半を占めていますが、100m 以上の長大橋も存在します。
- 鉄道や道路を跨ぐ橋梁が存在します。

●橋梁の種類別の分布



●橋梁の長さ別の分布



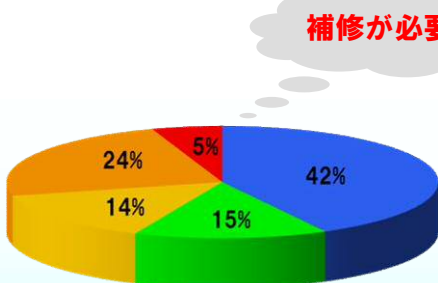
3. 橋梁点検の結果

○橋梁長寿命化修繕計画を策定するにあたっては、橋梁点検を実施し、管理橋梁の現状を把握することが重要です。

○橋梁点検の結果を踏まえて、橋梁の健全度を 100 点満点で評価しました。

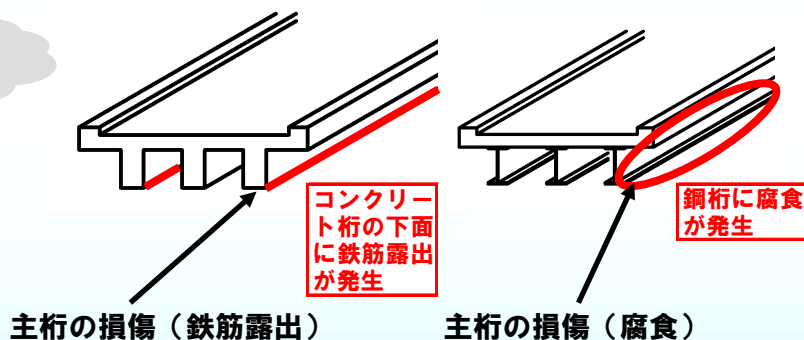
○管理橋梁のうち、令和元年度計画策定橋梁 76 橋については、大半が健全な状態でしたが、一部の橋梁で補修が必要な損傷が確認されました。

●令和元年度計画策定橋梁 76 橋の健全度分布



凡例	橋梁の状態
■ : 100~80	良好
■ : 80~60	↕
■ : 60~40	
■ : 40~20	
■ : 20~0	

●補修が必要な損傷



4. 橋梁長寿命化とは・・・

- 従来は、重大な損傷が見つかったから大規模で高価な修繕（事後保全）を行っていました。
- 人間が定期的に検診し、軽症時に治療することで重症化を防ぐとともに治療費も安価としているように、橋梁も定期的に点検し、損傷が軽微な段階で修繕すること（予防保全）によって長寿命化を図るとともに修繕費を安価とすることが可能となります。

●予防保全の重要性（病気の症状との対比）

例) 人間		例) 床版	
症状	処置	状態	対策工法
健康	健康診断	ひびわれなし (健全)	定期点検
風邪の気配 (軽症)	うがい	1方向ひびわれ (損傷度: 小)	ひびわれの修復
風邪引き (やや重症)	風邪薬	2方向ひびわれ (損傷度: 中)	床版の補強
ダウン (重症)	入院・手術	ひびわれ貫通・角落ち (損傷度: 大)	床版の交換

日常生活への影響

↓

小

大

予防保全

事後保全

コスト・社会的影響

↓

小

大

5. 橋梁長寿命化修繕計画の策定

大淀町橋梁長寿命化修繕計画策定の基本方針

○優先順位の考え方

点検結果に基づき、効率的な維持及び修繕が図れるよう必要な対策を講じます。

対策は、第三者に対する安全性に著しく影響を及ぼし、緊急的に対応が必要な損傷がある橋梁を優先的に実施します。

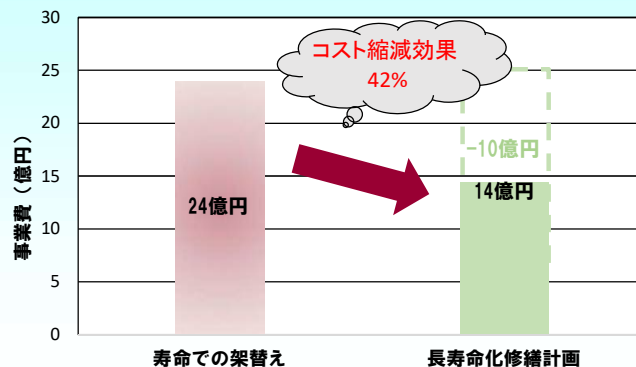
速やかに補修を行う必要がある区分「Ⅳ」または「Ⅲ」と判定した橋梁については、損傷箇所数や損傷程度を考慮し、優先的に対策を実施します。次いで、「Ⅱ」と判定した橋梁のうち、将来的に第三者被害の影響が想定されるものや今後も劣化の進行が想定されるものなど、早期に対策が必要な橋梁について対策を実施します。

○新技術・新工法を積極的に活用することにより修繕費用の縮減や再劣化の抑制を図ります。

6. 橋梁長寿命化修繕計画による効果

○橋梁長寿命化修繕計画に基づいて適切な時期に対策を実施することによって、寿命での架替えを実施した場合と比べて、**約4割のコスト縮減**が見込まれます。

●今後50年間の総事業費の比較 (令和元年度の試算結果)

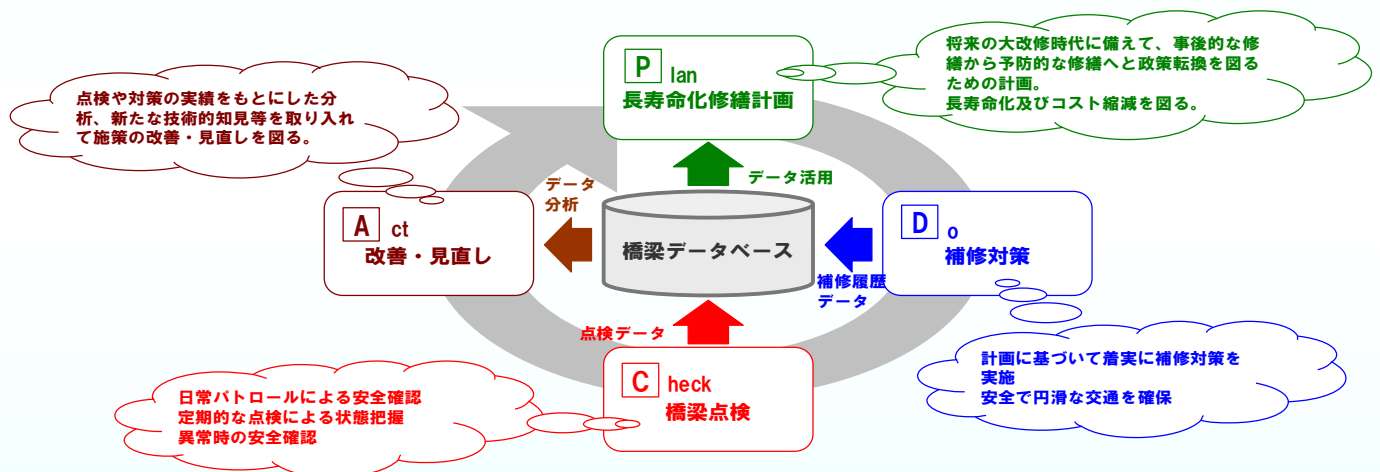


7. 今後の維持管理体制

○大淀町では、今後、維持管理費の負担増が想定されるため、下表の方針で実施します。

集約化・撤去	迂回路が存在し集約が可能な橋梁について、 令和7年度までに2橋程度の集約化・撤去を検討します。
新技術等の活用	令和7年度までに管理する76橋のうち、 約1割の橋梁で新技術の活用を目指します。
費用の縮減	1巡目の定期点検で橋梁点検車及び高所作業車を使用した橋梁(管理橋梁の約2割)については、 新技術(NETIS(新技術情報提供システム))の活用を重点的に検討し、令和7年度までの5年間で約2百万円のコスト縮減を目指します。

●今後の維持管理体制 (PDCA サイクル※)



○対策内容と実施時期

今後10年間で対策を実施する橋梁の対策内容と対策時期、対策費用を整理したものを、「別表-1」に示します。

※PDCA サイクルとは、事業活動における生産管理や品質管理などの管理業務を円滑に進める手法の一つの考え方であり、業務の継続的な改善を図るのに効果的です。PDCA サイクルによる維持管理体制を構築し、橋梁の長寿命化及び維持管理コストの縮減に努めていきます。

9. 長寿命化修繕計画策定部署及び問合せ先



大淀町 建設環境部 建設産業課

大淀町大字桧垣本 2090 番地

TEL : 0747-52-5543

FAX : 0747-52-4310

